
神の孫と真緑の瞳

千乃木 零

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神の孫と真緑の瞳

【Nコード】

N9545Y

【作者名】

千乃木 零

【あらすじ】

事故に巻き込まれて死んだ蒼木龍斗は、まだ幼い頃に姿を消した祖母と出会う。祖母の正体は神様！で龍斗は転生することに！？

神の血を継ぐ少年はその瞳に何を映すのか？

初めての投稿で未熟な文章ですが、よろしくお願いします。

優しき過去

それは、過ぎ去った時、愛しく優しい記憶。

闇よりも深い青みがかった黒髪と黒曜石の瞳を持つ初老の男性が家の柱にもたれて、庭を見ている。

その視先の先に居るのは、男性と同じぐらいの年齢の女性とまだ三四歳ぐらいの男の子だった。

女性は明るいブラウンの髪を結び上げ、自分の服を掴んでいる子供を見てセピア色の眼を細めている。子供は男性と同じ黒髪黒瞳で、女性とよく似た顔立ちをしていた。

夕焼けの空をトンボが飛び回っている姿を子供は熱心に目で追っていた。

女性がふと思いついた顔で腕を伸ばし、指を上に向ける。すると、その指にトンボがとまった。

「わあー。すごい。おばあちゃんそれってどうするの？僕もやりたい」

トンボが自分からやって来たことに驚いて、自分もしたいとねだる子供に女性は苦笑しながら膝を折って視線を合わせる。

「そんなに騒いでいては、トンボは近付いてきてくれないよ。優しく、心で呼ぶんだよ」

「心で呼ぶ？」

「そうだよ。命あるものには魂があり、心がある。ひとつひとつが違うものだけど、必ずあるんだよ」

子供は首を傾げながら女性を見上げている。そんな子供の様子を見て、クスクスと笑いながら女性は優しく子供の頭を撫でた。

もう、戻ることのない光景は優しく、愛しく、切ないものだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9545y/>

神の孫と真緑の瞳

2011年11月29日01時58分発行